Ⅳ-6　旧街道商店地区の地域デザインにおける店の役割

香川県庁　正会員　○前田圭美
徳島大学工学部　正会員　三宅正弘
徳島大学大学院　学生員　亀谷一洋
徳島大学工学部　吉川よし江

1.はじめに

戦後の経済成長に伴い，幹線道路が整備されそれまで地域の経済，流通，文化の大動脈として機能していた街道が裏通り化され，その沿道商店が衰退の危機にさらされている場合が数多く見られる．また一方で，商店地区として，衰退や空洞化の危機を脱却すべく，中心商店街活性化などのまちづくり施策や伝統的町並み保存などが全国各地で行われている．しかしながら，中心商店街には属さない旧街道沿道の商店地区で，また伝統的な町並みや建造物を有さない商店地区では今後のまちづくりに向けた施策が用意されていない現状がある．

そこで，本研究では，中心商店街から外れて位置し，かつ裏通り化され，さらに歴史的な物的ストックを有さない旧街道商店地区での地域デザインにおいて，効果的施策として何をキーワードとするのが有効かを明確にすることを目的とした．助任商店地区を旧街道商店地区のケーススタディとして形成および盛衰経緯に関する調査を行い，関係主体に対する意向調査から長所を抽出して旧街道商店地区の今後の地域デザインの方向性について述べる．

2.助任商店地区の概要と地理的位置付け

助任商店地区は，下助任 1～3 丁目と助任本町３丁目の一部とする．当該地区を通る街路はかつて淡路街道として機能した通りであるが，経済成長に従って周囲の幹線道路が整備され，裏通りとして当時の道路幅員のまま現在も残されている.また，街路沿道には古くからの商店や神社も残されているものの，第二次世界大戦の戦災を受けており，戦後の建造物で構成されており，伝統的な物的ストックと呼べるものではない．沿道商店については完全に衰退しているのではなく，人を集めている店舗も存在している．助任商店地区と徳島市中心商店街（新町商店街周辺，駅前大型店舗外）との地理的な位置関係については，JR 徳島駅の北方約１km，徒歩約 15 分のところに位置しており，近接しているものの回遊圏内にはない．都市計画の観点から見ると商業地区とされており，建ぺい率 80%以下，容積率 400%以下の制限が設けられている．[1)]

図１　徳島市中心商店街と助任商店地区
（国土地理院発行　徳島市全図 1/1 万参照）

3.助任商店地区の街路沿道商店の変遷経緯

街路沿道商店の更新および非商業化店舗数の推移は図２に示す．1970－2001 年にかけて,更新店舗数は確実に減少しており,一方非商業化店舗が増加している．また街路沿道商店について,その業種から食料品小売業，喫茶・飲食業，日用品雑貨小売業，衣料・装身具小売業，家具・家電小売業，サービス業，医療施設，会社・事務所等に分類し,店舗数の推移を図３に示す．1980 年には 76 店舗を数えたが，現在は 51 店舗によ

って構成されている．1980 年以降では食料品小売業，喫茶・飲食業の減少傾向が顕著にみられる．他の業種については多少の変動はあるものの，著しい増減はない．

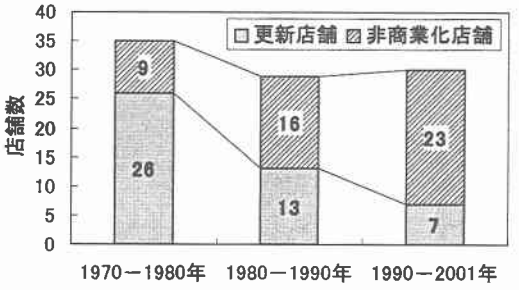

図２　助任商店地区における更新および非商業化店舗数の推移

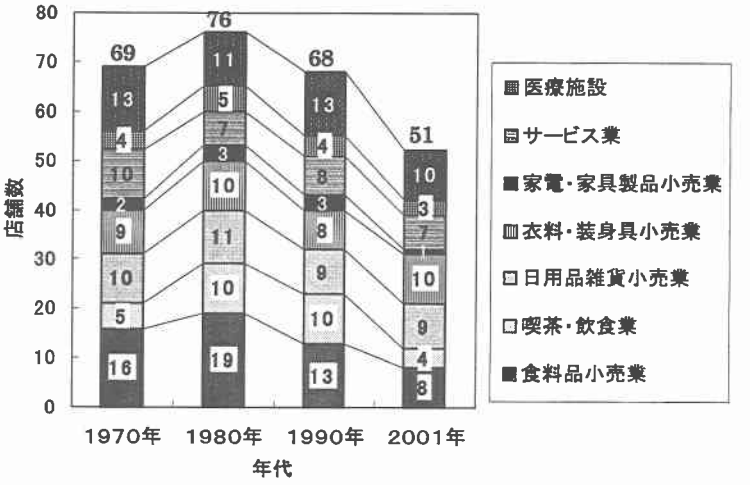

図３　助任商店地区の業種別店舗数の推移

4.旧街道商店地区の地域デザインにおける店の役割に関するキーワード抽出

4-1　調査方法

関係主体として沿道商店主,周辺居住者および利用者を挙げ,沿道商店 15 店舗に対しては戸別訪問のうえ,ヒアリング調査を行った.また周辺居住者および利用者に対しては,戸別配布によるアンケート調査（50/150 回収率 33.3%）を行った後,アンケートの際,多くの意見を有していた主婦 3 名をターゲットとしてフォーカスグループミーティングを行った.

写真１　フォーカスグループミーティングの様子

4-2　調査から抽出された旧街道商店地区の店の長所

(1)個々の店舗として，こだわりを持っていたり，販売形式に関して店舗独自の施策を活発に行っていたりすることから個性が創出され，周辺住民に限らず，遠方からの集客にも力を発揮している個性的店舗が存在していること.

(2)個々の店舗として，店舗を金銭と商品の交換を行う経済の場としての機能のみではなく，特に地域住民の顧客との対話によりコミュニケーションを図る場としての機能を持つ地域密着型対話式店舗が存在していること.

(3)個性的店舗と地域密着型対話式店舗のどちらか一方のみで商店地区を形成しているのではなく，混在していること.

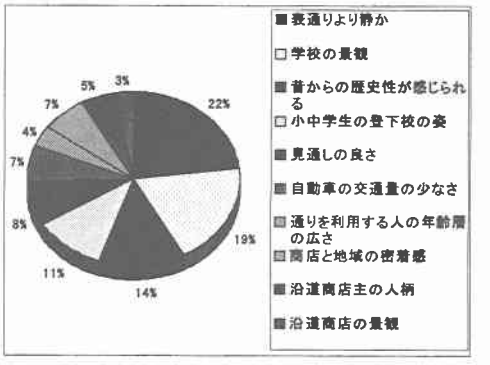

図４　居住者兼利用者アンケートによる「助任商店地区の好きなところ」

5.おわりに

全国的に顕在化している旧街道商店地区の方向性を考えるために，本論では特に裏通り化され商店数が減少しているにもかかわらず，商店地区が完全に衰退することなく，また新たな来街者を集めている地域を事例として分析した．その現状分析から今後のポテンシャルを考えると，４章で導き出した長所を維持もしくは伸ばしていく方法が，地域を完全に衰退させずに次世代に伝えていく方策の一つであると思われる．

参考文献

１）野田昭子：『卒業論文　徳島市の都市計画史－戦災復興都市計画の変遷とその考察』